

# 2023年3月期第2四半期 決算説明会

2022年11月25日  
中央化学株式会社

(スタンダード:7895)

# 目次

- 1 2023年3月期第2四半期 連結実績

---
- 2 2023年3月期 方針

---
- 3 2023年3月期第2四半期 振り返り

---
- 4 2023年3月期下半期 取り組み

---
- 5 地球環境保全への取り組み

---

# 1. 2023年3月期第2四半期 連結実績

---

# 2023年3月期第2四半期 連結実績

1. 2023年3月期第2四半期 連結実績

売上高

**243億円**

営業利益

**14百万円**

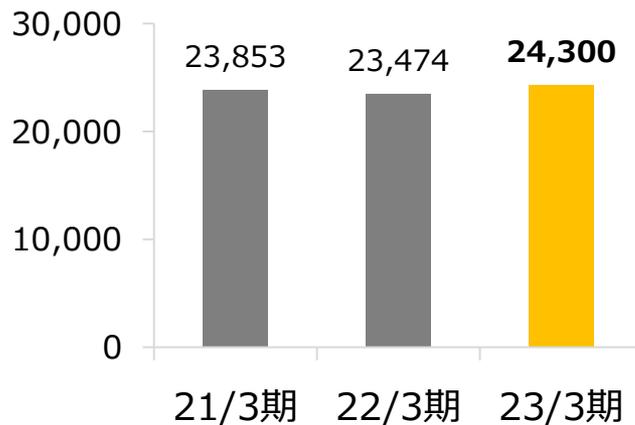
経常利益

**1百万円**

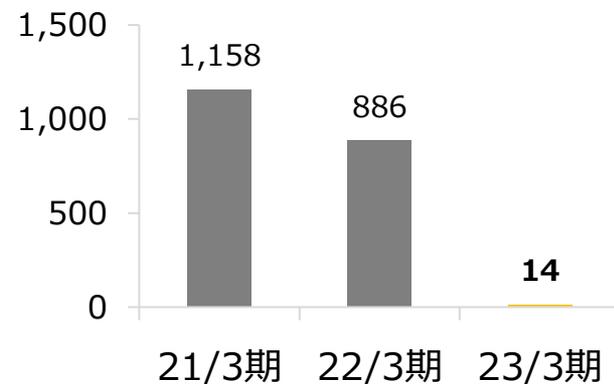
親会社株主に帰属する  
第2四半期純利益

**△24百万円**

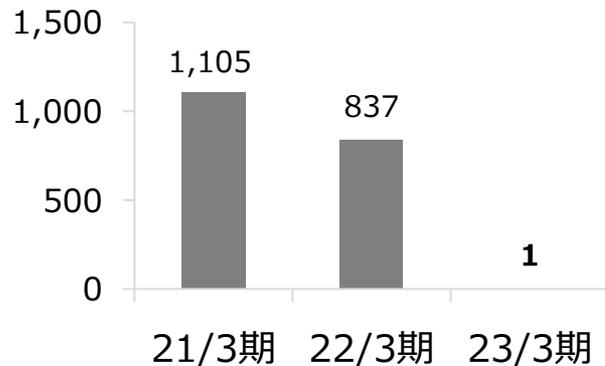
売上高



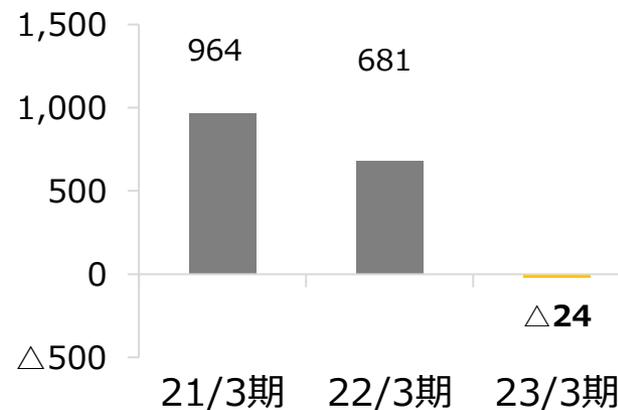
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



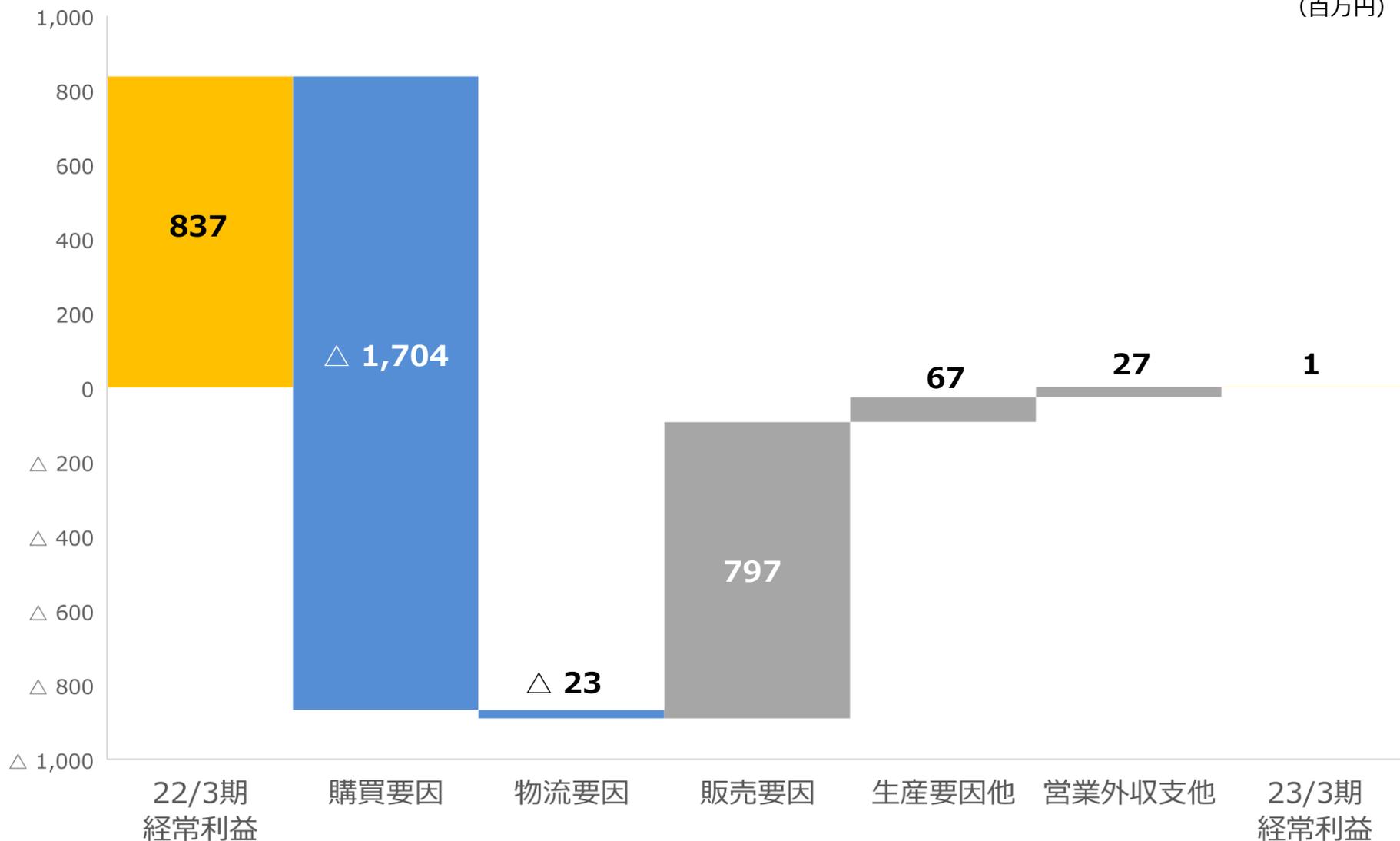
第2四半期累計となります。

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

# 2023年3月期第2四半期連結経常利益の増減 (前年度対比)

1. 2023年3月期第2四半期 連結実績

(百万円)

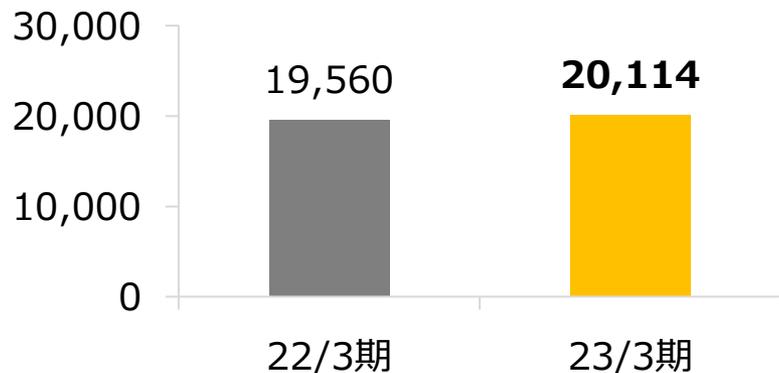


# 報告セグメントの売上高・利益

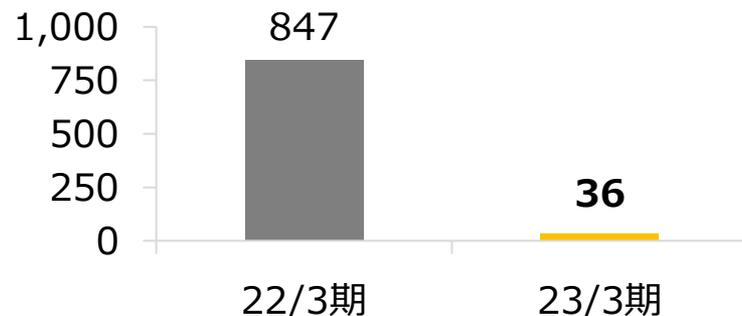
1. 2023年3月期第2四半期 連結実績

(百万円)

日本 売上高



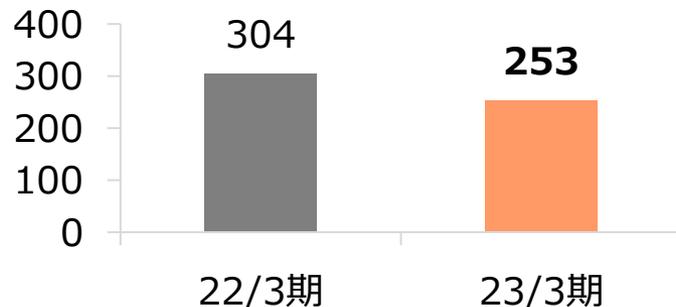
日本 セグメント利益



中国 売上高



中国 セグメント利益



第2四半期累計となります。

(注) 上記セグメント利益は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用合計275百万円差引前の営業利益になります。

# 連結貸借対照表

1. 2023年3月期第2四半期 連結実績

(百万円)

	22/3期 期末実績	23/3期 2Q末実績	増減
流動資産	21,423	24,740	3,317
現金及び預金	3,235	5,713	2,478
受取手形	1,266	1,336	70
売掛金	6,828	7,236	408
たな卸資産	7,605	8,043	438
その他	2,487	2,410	△77
固定資産	15,924	15,752	△172
有形固定資産	14,445	14,226	△219
無形固定資産	396	421	25
投資その他の資産	1,082	1,104	22
資産合計	37,347	40,492	3,145
負債合計	26,815	29,620	2,805
有利子負債残高	10,628	12,228	1,600
純資産合計	10,531	10,872	341
自己資本比率	28.2%	26.8%	△1.4%
負債純資産合計	37,347	40,492	3,145

※百万円未満切り捨て

# キャッシュフローの連結実績

1. 2023年3月期第2四半期 連結実績

(百万円)

	22/3期 2Q累計	23/3期 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	936	1,597
投資活動によるキャッシュ・フロー	△216	△395
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,132	1,179
現金及び現金同等物に係る換算差額	38	96
現金及び現金同等物の増減額	1,889	2,478
現金及び現金同等物の期首残高	3,578	3,229
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,468	5,707

※△は減少

## 2. 2023年3月期 方針

---

### 基盤整備ステージ

2019年3月期～2021年3月期

### 飛躍と成長ステージ

2022年3月期～2024年3月期

#### 経営戦略

- 地球環境保全・資源循環を念頭に、新市場・成長市場に取り組む
- 技術の革新を継続し、市場ニーズに応え、世の為、人の為の容器メーカーとなる
- 日本、中国の連携・協業を強め、わが社ならではの価値を生み出す

#### 行動指針

1. 「魂」を込めてやり抜く

- 目標・計画を必達する「企業魂」
- 大切に大事に製品を造り上げる「モノ造りの魂」
- 愛着を持ち、お客様に感謝頂く「製品を愛する魂」

2. 創意工夫をこらし、新市場・成長市場に取り組む

3. 連携・協調・協業を大切にし、内を向くのではなく、新しいチャンスに挑戦する

#### 2023年3月期 全社スローガン

#### 「変革・挑戦・開発」

- 企業活動全般を抜本的に「**変革**」
- 成長市場、新市場の開拓に全社を挙げて「**挑戦**」
- 経営トップから一社員に至るまで全社員が創意工夫をこらして「**開発**」に取り組む

### 3. 2023年3月期第2四半期 振り返り

---

## (1) 外部環境

- ▶ 新型コロナウイルス感染の影響の長期化
- ▶ 世界的なサプライチェーンの混乱
- ▶ 急激な円安の進行
- ▶ 原材料の高止まり・電力料や物流費等は更に上昇
- ▶ 世界的な環境意識の一段の高まり

## (2) 国内事業

### 新市場・成長市場への取り組み

- ▶ 環境配慮型素材・製品の開発・拡充
- ▶ 食品のロングライフ技術導入企業の増加に伴う新規受注獲得の強化推進
- ▶ ウイズコロナによるライフスタイル、働き方等の変化に伴う新たな需要への取り組み

### リサイクルへの取り組み

- ▶ リサイクルPET (C-APG)事業の強化
- ▶ 店頭回収及びリサイクル (マテリアル、ケミカル) の強化

### オペレーション改革の加速 (会社基盤の強化)

- ▶ 製販物連携による最適なタイミングでの新製品上市
- ▶ 人材育成、多様性の尊重、自由闊達な企業風土の醸成

### 原材料価格等コスト高騰への対応

- ▶ 工場稼働率向上、原材料ロス削減を始めとする原価低減を推進
- ▶ 5月に2度目の製品価格改定を発表 (短期間で改定を行うのは異例)

## (3) 中国事業

- ▶ゼロコロナ政策によるロックダウン等企業活動が制約される中、安定操業を継続し製品供給を履行、エッセンシャルワーカーとしての責務を全う
  
- ▶環境配慮型素材・製品の開発・拡充・拡販
  - ▶▶生分解性素材をベースとする製品開発
  - ▶▶紙製容器の販売開始
  - ▶▶非プラスチック製品等の品揃え拡充・拡販  
(木製カトラリー、軽量化カトラリー、生分解性レジ袋、パルプモールド製品等)
  
- ▶3生産拠点（海城、無錫、東莞）の経営体制整備
  - ▶▶現地社員が海城総経理に就任し、全生産拠点の総経理が現地社員化
  - ▶▶現地社員主導の事業運営＋本社派遣人材がサポート

## 4. 2023年3月期下半期 取り組み

---

### (1)外部環境

- ▶ウクライナ情勢の長期化等地政学リスクは一段と深刻化
- ▶世界的なサプライチェーンの混乱は継続
- ▶円安の進行
- ▶原材料、エネルギー、物流費、食料等価格の騰勢は継続
- ▶新型コロナウイルスについては、感染防止からウィズコロナ・アフターコロナへ
- ▶地球環境保全に向け、CO<sub>2</sub>排出量削減、資源循環への取り組みは加速

### (2) 取り組み方針

- ▶ CO<sub>2</sub>排出量削減、減プラスチック・軽量化・薄肉化、資源循環に資する環境配慮型素材・製品の新規開発、競争力・提案力の強化を加速
- ▶ 環境問題であり、社会問題でもある食品ロス削減に寄与するロングライフ容器・冷凍食品向け容器等、機能的製品事業を強化
- ▶ 使用済みプラスチック食品包装容器の店頭回収推進
- ▶ 企業体質の強靱化（全社スローガン「変革・挑戦・開発」）
- ▶ 日本、中国の連携を深堀し、当社ならではの強みを活かす
- ▶ 人材育成、多様性の尊重、自由闊達な企業風土の醸成
- ▶ ステークホルダーの期待に応え、企業価値向上に全力を尽くす

## 5. 地球環境保全への取り組み

---

# 5. 地球環境保全への取り組み

カーボンニュートラル社会の実現に向けて

パリ協定に基づき日本政府は2030年までに46%（2013年度比）の温室効果ガス削減目標を掲げています。当社も政府目標に貢献すべく具体策を策定し取り組んでいます。

リサイクル素材やバイオマス由来原料の活用、製品製造時の省エネルギー化、輸送効率の向上、プラスチック廃棄物の削減などあらゆる施策を駆使してカーボンニュートラル社会実現に向けた取り組みを行います。



▼ 注力する取り組み

▼ 2030年度目標

## 資源循環リサイクル



PET製品のC-APG化

**100%**

## 環境配慮型素材・製品の開発



PSP、OPS、C-APG製品の軽量化

**▲5%**

環境配慮型製品の販売割合増加

**7倍**

## 食品ロス対策



機能性容器の販売数量増加

**8倍**

## 環境配慮型素材・製品の開発・拡充

Reduce



MAPKA®

天然資源タルクにポリプロピレンを加えて作られています。石油由来プラスチック原料が50%未満の環境配慮型素材

紙パウダーを主原料とし、ポリプロピレンを50%未満混成させた環境配慮型素材

Recycle



PETボトルのリサイクル原料を使用したA-PET素材

Renewable

バイオCT・バイオCF

MAPKA®

バイオマスプラスチックを10%加えた環境配慮型素材

紙パウダーを主原料とし、ポリプロピレンを50%未満混成させた環境配慮型素材

食品ロス削減

Ever Value



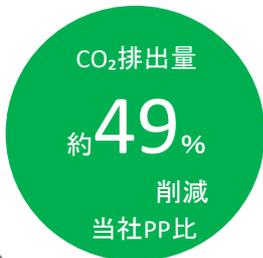
バリアスキンパック

耐寒CT

消費期限延長

※MAPKAは、株式会社環境経営総合研究所の登録商標です

## Reduce プラスチック使用量の削減



TA OCTAL  
汁漏れしにくく、特徴的なフランジが持ち手になる容器

その他製品ラインナップ



TA R-DON



TA DINER



MPK cucuri  
紙パウダーを主原料としたMAPKA®を使用した  
シンプルなテイクアウト容器

その他製品ラインナップ



MPK 街デリBOX

※MAPKAは、株式会社環境経営総合研究所の登録商標です

# Reduce プラスチック使用量の削減

## 軽量化素材

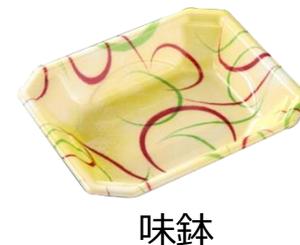
- ・PSP
- ・PSP (耐熱)



※発泡素材と無発泡素材  
の当社比較例



## その他製品ラインナップ



ポリスチレン樹脂を高発泡させた素材



# 5. 地球環境保全への取り組み (環境配慮型素材・製品の開発・拡充)

5. 地球環境保全への取り組み

## Recycle PETボトルのリサイクル原料を使用



CO<sub>2</sub>排出量約 **27%** 削減  
当社A-PET比

### その他製品ラインナップ



C-APG TFボウル  
小さく潰して減容化できる容器



C-APG OFL  
フィルムを無くすことができ、  
作業性を高めることができる容器



トルク



VCN



FST



SDL



クイック

## Renewable バイオマスプラスチック原料を10%使用

### バイオCT/CF

CO<sub>2</sub>排出量約 **7%** 削減  
当社CT/CF比

### その他製品ラインナップ



BCT SHIELD  
開封識別機能のついた容器



BCF 宝台  
見栄えをキープしつつ、  
ドリップが漏れにくい容器



BCT グリル



BCT はるか



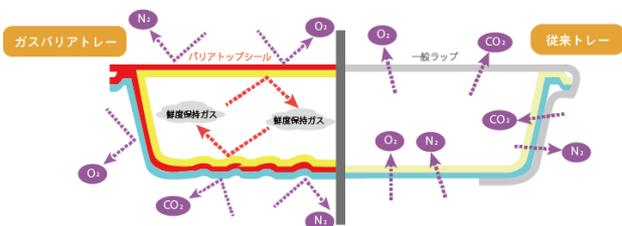
BCF コバコ



BCF 海帆

## ロングライフ容器

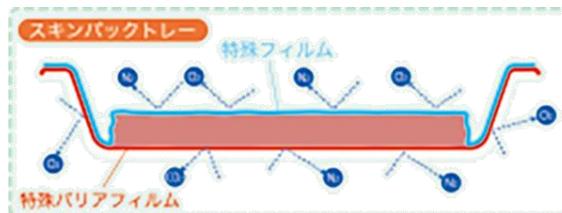
Ever Value  CHUO KAGAKU



Ever Value®は、鮮度保持ガスを容器内に密閉し、食品の酸化・雑菌の繁殖を抑制することにより、鮮度を保持できる当社独自の容器です。

魚や肉、野菜などの消費期限を延ばし、食品ロスの削減に貢献します。

## バリアスキンパック



バリアスキンパックは、特殊バリアフィルムを貼った容器に食材を乗せ、スキンフィルムで圧着することで酸素や窒素を通さない密閉包装をした容器です。

Ever Value®と同じく消費期限延長を可能とし、食品ロスの削減に貢献します。

## 耐寒CT

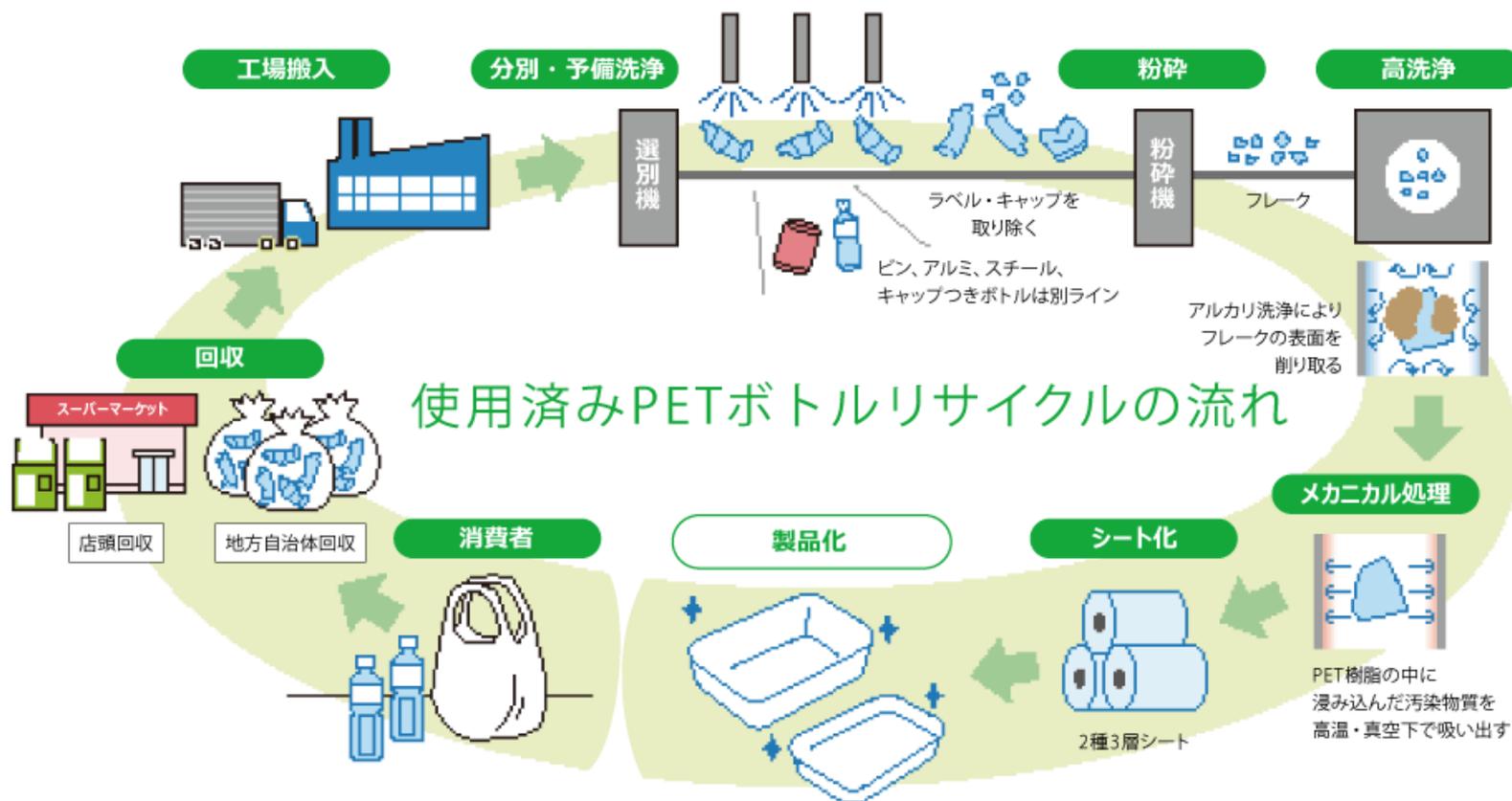


耐寒CTは、当社素材の130℃の耐熱性のあるCTを使い冷凍も可能にした容器で、冷凍からレンジアップまで幅広い温度帯で使用できます。

# 店頭回収リサイクル



## リサイクル素材の活用 C-APG (リサイクルPET)



C-APGは2種3層構造の素材で、表層にバージン素材、中間層にリサイクルされた再生素材を使用することで食品の直接接触が可能で全ての食品用途に使用することができます。

## 中国の環境配慮型素材・新製品の開発・拡充

・耐熱生分解性容器  
タルク+PLAをベースとし  
レンジアップ可



・紙製容器  
環境配慮型製品として  
品揃え  
急速に高まる紙製容器  
需要に対応



・非プラスチック製品等の品揃え拡充  
(木製カトラリー、軽量化PLAカトラリー、生分解性レジ袋、パルプモールド容器)

木製カトラリー



軽量化PLAカトラリー



生分解性レジ袋



パルプモールド容器



・環菱中央化学 展示ショールーム開設予定

環菱中央化学は、今春事務所を移転、今後展示ショールームを開設し、環境課題への取り組みと顧客への迅速な製品PRを行う。

ショールームイメージ



本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。